

非血縁者間骨髄採取 認定施設
採取責任医師 各位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会

ディスポーザブル骨髄穿刺針（ランファック社 RF Bone Marrow Needle） 内針・外針の向きに関する注意喚起

平素より骨髄バンク事業にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

このたび、シーマン社でアルゴンメディカルデバイス社製 Bone Marrow Harvest Needle（ディスポーザブル骨髄採取針）の販売終了に伴い、2026 年 8 月よりランファック社製 RF Bone Marrow Needle への移行が開始されています。ランファック社製品はアルゴンメディカルデバイス社製品と異なり、内針と外針の向きが一致していない場合でも、内針を外套に装着できる構造のため、内針と外針の先端の刃面が一致していない状態で穿刺を進めた場合、刃先の損傷・破損や、万一破損した場合には金属片が体内に残留する可能性があり、特に注意が必要となります(写真 2, 3, 4)。

つきましては、ドナーの安全確保および円滑な骨髄採取の観点から、下記の点について、改めてご確認をお願いいたします。

記

【重要】 内針と外針の先端形状が一致するように必ず確認してください。

1. 正しく装着する方法

写真 1 のように骨髄穿刺針本体の中央部に▽の印があります。必ずこの▽を目印に内針と外針の先端形状が一致するように内針を装着してください。



写真 1：三角形の印を確認する位置



写真 2：内針と外針の先端形状一致した状態

写真 1 では、穿刺針本体にある三角形の印を目印として、内針と外針の向きを合わせます。

2. 内針と外針の先端形状が逆向きになった場合

骨髓採取中に穿刺針の深さを変更し、さらに骨髓内へ進める際には、内針を外針に再挿入する操作を行います。この際、外針（外套）を体外に抜かずに操作するため、内針と外針の先端形状を直接目視で確認することができません。内針と外針の先端の刃面が適切に一致していない状態で穿刺を進めた場合、刃先の損傷・破損や、万一破損した場合には金属片が体内に残留する可能性があります。また、骨髓組織に不要な損傷を与え、骨髓採取に支障をきたす可能性もあります。

このため、内針を外針に再挿入する際には、穿刺針本体の三角形の印を目印として、内針と外針の向きが一致していることを必ず確認してください。



写真3：内針と外針が逆向きになった状態

写真4：逆向きの状態を拡大したもの

写真3・4のような状態にならないよう、再挿入時には必ず向きを確認してください。

3. 施設内での周知について

各施設におかれましては、骨髓採取を担当する医師および採取に関与するスタッフに対し、本注意事項について周知いただき、ドナーの安全確保と適切な骨髓採取のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

以上

【製品に関するお問い合わせ先】

シーマン株式会社

・大阪本社 TEL：(06) 6354-7702

・東京支店 TEL：(03) 5207-3521

・九州支店 TEL：(092) 283-7400

・名古屋営業所 TEL：(052) 218-7337

(公財) 日本骨髓バンク

ドナーコーディネート部 TEL 03-5280-2200